

## 助け合う世界を創る 国際協力募金

物価が上がって生活が苦しくなっているのに、なぜ外国の人に募金しなければならないのか。コロナや戦争で先の見えない時代に国際協力どころでない、という声を聴くことがあります。でも、そんな時だからこそ、国際協力が大切なのではないのでしょうか。

公益財団法人 アジア福祉教育財団

難民事業本部関西支部 中尾 秀一 さん

### 深刻化する世界の貧困 拡大する格差

日本にも貧困の問題がありますが、世界の貧困はより深刻です。十分な食料を得ることができず栄養失調状態にある人は、2019年は7億200万人でしたが、昨年までの2年間で8億2800万人に急増しました。世界に食料が足りていないわけではありません。コロナの影響で貧富の格差が拡大し最も貧しい人たちがより貧しくなったために、食料を買うことができなくなったのです。

格差が拡大する中で、経済的に恵まれている世界の上位10%の人々が世界の富の76%を独占しており、この文章を読んでもらわれるほとんどの方がその10%に含まれています。私たちの豊かな生活が、途上国の貧困の一因となっているとも言えるのです。



パレスチナYMCA トラウマケア

### YMCAの国際協力

日本YMCA基本原則には「私たちは、アジア・太平洋地域の人びとへの歴史的責任を認識しつつ、世界の人びとと共に平和の実現に努めます」とあります。植民地支配、侵略戦争といった過去の負の歴史に向き合うのと同時に、現在、未来において、YMCAだけでなく、広く「世界の人々と共に」協働していくことが表明されています。

実際に、YMCAは社会教育の分野でこれまで積み上げてきたノウハウを生かしつつ、必要に応じて専門分野の協力団体や協力者と共に活動しています。「平和の実

現」とは単に戦争がない状態ではなく、貧困や飢餓、差別などで苦しむ人がいない世界を創ることなのです。

### YMCA国際協力募金

新型コロナウイルスの世界的な流行やウクライナ危機の世界経済への影響によって、世界と私たちがつながっていることを強く実感させられることになりました。自分たちさえ良ければ、という考え方はますます通用しない世界になっています。また、自然災害

が多く、天然資源に乏しい日本に暮らしている私たちは、いつ他の国々に助けをもらうことになるのかわかりません。

YMCA国際協力募金は、お金を集めるだけではなく、どのような課題が世界にあって、私たちの暮らしといかにつながっているのか、そして、課題の解決のために私たちにできることは何かを考える機会にもなっています。明日の見えないこの時代こそ、助け合う、支えあうのが当たり前の世界にしていく。その一つの取り組みがYMCAの国際協力募金です。

ポジティブネットYMCA国際協力募金にご協力をお願いします。

寄付のお振込みは 郵便振替 01050-7-19132 京都YMCA奉仕活動基金 へお願いします。

詳細は京都YMCAホームページをご覧ください。



# サマープログラム報告

新型コロナウイルス感染症の影響下3年目のサマープログラムとなった今年は、特に本館で開催するスイミングと体操教室については、これまで以上の感染対策として換気の促進に注力を注ぎました。参加者数は、スイミング323名（昨年比3名減）、体操教室115名（昨年比8名増）で、7月前半からのコロナ感染者急増にもかかわらず、昨年と変わらず多くの子どもたちに参加していただくことができました。



旧神崎小学校準備ワーク  
ワイズメンズクラブの皆様にご協力いただきました

キャンプについては、昨夏惜しまれながら閉場したサバエ教育キャンプ場（以下サバエ）に代わるキャンプの場として、舞鶴市北部の神崎浜で、旧神崎小学校を拠点としてリーダートレーニング及び2泊と3泊のキャンプを行いました。

旧神崎小学校でのキャンプ実施に先立ち、7月上旬に、廃校となり使われなくなった校舎をキャンプの生活の場として利用できるようワイズメンズクラブの協力を得てワークを行いました。ワークには、地元の北京都フロンティアワイズメンズクラブを含む7つのクラブから67名が参加し、清掃作業やベッドの組立、運搬など多くの作業を担っていただきました。

また、神崎海水浴場の海の家で温水シャワーを利用させていただくことになり、子どもたちが毎日入浴する環境を整えることができました。食事については、昨年までのサバエでの経験を生かしてリーダーによる給食の提供も行い、海でのキャンプを無事行うことができました。これ以外にも、リトリートセンターでのキャンプを5回（昨



年まで3回）、宮津での海のキャンプを1回行い、合計で216名（昨年比34名減）の子どもたちの参加を得ました。

ちなみに、今年はキャンプ申し込みのキャンセルが60名あり、ほとんどが新型コロナウイルスの感染もしくは濃厚接触となったことが理由でした。夏のキャンセル者数としては過去最高の人数となりました。

最後になりましたが、特に神崎浜でのキャンプに関しては、多くの関係者の理解と協力によって、新たな場で海のキャンプ展開を成功させることができました。心より感謝申し上げます。

## ご協力感謝と報告

## 「夏の思い出を等しく子どもたちにキャンペーン」



子育て支援の取り組みとして、経済的理由や家庭の事情により夏休みに泊りがけで遠出できない子どもたちが、YMCAのサマーキャンプで楽しい夏の思い出を作るためのキャンペーン「夏の思

い出を等しく子どもたちにキャンペーン」を実施しました。

キャンペーンは8月末で終了しましたが、多くの方にご賛同いただいた結果、153件の募金をいただき、総額743,000円が集まりました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

当初予定していた市内の児童養護施設の子どもの招待は、新型コロナウイルス感染拡大第7波の影響で叶いませんでしたが、今回のキャンペーンの支援により、12人の子どもたちが京都YMCAのサマーキャンプに参加できました。

今回のキャンペーンでは、子どもたちのサマーキャンプ参加費補助に398,750円を使用しました。事務経費等を除いた残りの資金は「子ども支援基金（BAPY）」として、YMCAの日常プログラムや冬のプログラムに参加するための助成を必要とする子どもたちの支援に、引き続き活用いたします。

7/15

## 日本語科留学生の祇園祭見学

日本語科

7月15日に、日本語科の留学生たちが祇園祭の見学に行きました。コロナ禍で中止していた祇園祭ですが、今年は山鉾巡行が行われ、3年ぶりに本格的な開催となりました。

まず、当日の午前の授業で祇園祭について学びました。祇園祭は、疫病退散を祈願するために始まった「おそれ」を起源とする、当時では珍しいお祭りでした。また、鉾・山車にご神体や人を乗せると言う「形」も斬新であったことや、ユニークで

豪華絢爛な装飾品、特徴的な祇園ばやしについても映像を見て予習しました。

さて、いよいよ出発。学生たちは、人や屋台の多さ、非日常なお祭りの雰囲気にくわくした様子で山鉾のある通りを練り歩き、事前学習で見た蠅螂山の「カマキリ」を見つけたり、装飾品で飾られた山鉾の前で写真を撮ったりして、それぞれの祇園祭を楽しみました。京都の人々が町全体で盛り上げ、守ってきたものを体感する良い機会となりました。



8/22

## Yわいひろば YMCA三条保育園

8月22日に、Yわいひろばが行われました。普段、幼稚園や保育園に通っていない未就園児の子どもたちと一緒にYMCA三条保育園の保育士が遊ぶプログラムです。今回は、4組の親子が参加し、共に感触遊びを楽しみました。

0歳児と1歳児の子どもたちは「う～ん？」「これなあに？」と戸惑った様子で

じっと保育士の手元を見つめていました。「ほら、どう？」「おいしいゼリーだよ、どうぞ！！」とままごと遊びのように誘うと、そっと指を伸ばして「ぐちゃぐちゃ」「ねえ！ふふふ」と寒天ゼリーやマッシュポテト、粒こんにゃくなど様々な感触を楽しんでいました。

8/26  
8/27

## 5歳児お泊り保育 YMCA三条保育園

子どもたちは出発前から、リトリートセンターでの「川あそび」と「森の探検」をととても楽しみにしていました。天気にも恵まれ、水のかけあいっこや生き物探しに大満足の子どもたちでした。

ひとやすみしているところに、森の妖精から「不思議な棒を見つけてね」とお手紙が届きました。森の中を探検していたら「あったよー」「これかな？」「見つけたー」と発見の声。夕食後のキャンプファ

イヤーでは不思議な棒はファイヤートーチに変身しました。パチパチと木のはぜる音や空にあがる火の粉が輝き、「もえろよもえろよ」と歌声が静かな森にひびきわたっていました。

その後、バスに乗って保育園へ。お友だちと一緒に布団を並べて寝ました。無事に朝を迎えることができました。ずっと見守ってくださっていた神さまに感謝いたします。



## YMCAの

## 活動について

皆様からのご寄付が  
YMCAの活動を支えます。  
温かいご支援をお願いいたします。

## Q. YMCAって何？

A. YMCAは、世界120の国と地域で6,500万人の会員が活動するNGOです。よりよい社会・世界をつくるため、地域のニーズに合わせた活動を行っています。

## Q. 京都YMCAはどんな活動をしているの？

A. 京都YMCAは、地域社会の課題やニーズに応えるため、子育て支援やユース世代の育成、成人の健やかな生活を支える活動、障がい児支援、ボランティアの活動・養成、国際協力支援等を行っています。

## 子ども支援基金

経済的理由や家庭の事情により、YMCAのプログラムに参加できない子どもたちに、参加費を補助するための基金です。

## 障がい児支援基金

発達障がい、知的障がい、肢体障がいによって日常生活に困難が多い子どもたちが、自信を持って心豊かな生活を送れるようになるための支援プログラムを行っています。

## 奉仕活動基金

ユースボランティアリーダーの育成、障がいのある方を支援するボランティア活動、自然災害発生時の支援活動、水辺でのいのちを守るための啓発活動を行っています。

YYYフォーラムとは、YMCA, Y's and Youth Forumの略で、ワイズメンズクラブとYMCAの協働理解のために毎年開催されています。今年のYYYフォーラムは、9月3日にウェスティン都ホテル京都で行われたワイズメンズクラブ京都部会の中で、京都YMCA職員の中村さん、リーダーOB・OGの皆様にご出席いただきまして開催いたしました。

打ち合わせの時から色々とお話を聞かせていただいて、これはうまくいくと自信を持っておりました。中村さん、リーダーOB・OGの皆様との打ち合わせは、学生時代もこんな感じだったんだろうと想像できる程に本当に微笑

ましく、良好な関係が現在も続いていることが素晴らしいと感じました。

実際にリーダーをしてきた方々が舞台の上で、リーダーとしての経験が現在に活かしていることを現役リーダーの皆様にお伝えする。それだけでも素晴らしいと思いますが、私が感動したのは中村さん、そしてリーダーOB・OGの皆様の人としての素晴らしさでした。

これまで「みつかる」「つながる」「よくなっていく」を信じて続けてこられた活動が、現在につながり、関わったリーダーの皆様が素晴らしい大人として活躍している。そして、その時に築いた関係が今も続いている。私だけで



なく、今回のYYYフォーラムを見ていただいたYMCAスタッフの皆様、ユースボランティアの皆様、そして我々ワイズメン、それぞれの立場で意義を見つけれられたのではないのでしょうか。

ワイズメンズクラブ京都部  
YMCAサービス・ユース事業主査  
宮崎 順巳 さん

## 10/30 国際協力街頭募金

市内7か所で街頭募金を実施し、ウクライナから日本に避難された方々への支援をはじめ、世界各地のYMCAが展開する教育活動を軸とした貧困者支援、難民支援へのご協力を呼びかけます。

2022年10月30日（日）13：00～15：00

場所：三条河原町ほか市内7か所

**お問い合わせ先**

会員活動部 ☎ 075-231-4388 ✉ honbu@kyotoymca.org

## 10/30 視覚障がい者の手引き講習会

視覚障がいの方を町で見かけたときの声のかけ方、手引きを頼まれたらどのようにサポートすればよいかを体験してもらう講習会です。どなたでも参加できます。

2022年10月30日（日）13：00～15：00頃

場所：京都市役所前広場 参加費：無料

主催：京都YMCAボランティアビューロー専門委員会

協力：ボランティアビューロー登録グループ

**お問い合わせ先**

会員活動部 ☎ 075-231-4388 ✉ honbu@kyotoymca.org

## 食欲の秋

### 11/20 リトリートセンター オータムフェスタ



自然豊かなリトリートセンターで、ご家族、お友達と秋の一日を楽しみましょう！美味しい屋台メニューが盛りだくさんで、秋の自然と味覚を満喫出来ます。ぜひご参加ください。【イベント詳細：10/20（木）ホームページ公開】

**お問い合わせ先**

リトリートセンター事務局 ✉ retreat@kyotoymca.org

## スポーツの秋

### 水中運動でこころとからだをリフレッシュ！



プールの中で体を動かす水中運動は、膝や腰などの負担を軽減しながら、効率的な筋力アップが期待できます。

[場 所] 京都YMCAウエルネスセンター5階プール

[利用時間] 平 日 7：00～8：30、9：30～13：00、18：30～21：00

土曜日 7：00～8：30、9：00～12：30、18：45～21：00

※日曜日・祝日は閉館日です。

本施設は会員制です。

1回2,000円で体験することができます。

トレーニング・マシンもごございます。



[詳細はこちら](#)

**お問い合わせ先**

ウエルネスセンター ☎ 075-255-4709 ✉ wellness@kyotoymca.org

## 勉強の秋

### 成人英会話教室 秋期講座開講のお知らせ



入門から上級まで、一人ひとりのレベルにあったクラスでレッスンを受けてみませんか？

「英語を話せるようになりたい」、「もっと上手になりたい」

そんなあなたにぴったりのコースがきっと見つかります！

まずは、無料体験レッスンにお申込みください！



[詳細はこちら](#)

**お問い合わせ先**

英語学校 ☎ 075-255-3287 ✉ education@kyotoymca.org

## 連載 第6回「私たちと共に生きる羊飼い」

# 共に生きる

本田 義史 さん

京都紫野ホーリネス教会 牧師

聖書の教えから現代社会を生きるヒントを。

この連載は毎号違う牧師が寄稿する「リレー形式」でお届けしていきます。

ヨハネによる福音書10章11節 私は良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。

牧師になる前、私は介護福祉士として働いていました。介護の現場でよく耳にした言葉は「もう生きるのがしんどい」「老体を引きずり生きるのは辛い」という声でした。その頃は命について考える毎日を送っていました。介護は人生の終わりに寄り添う仕事です。そういう背景を持つ牧師として、私は病床訪問など「パストラルケア」への想いがあります。「パストラルケア」は、英語の「パスター／牧師」という意味を含み、「羊飼いのようなケア」という意味があるそうです。

最初の聖書の言葉にあるように、イエスさまはご自分のことを「羊のために命を捨てるほどの羊飼いである」と自己紹介されました。懸命に生きる人がいて、そういう人と関わる仕事があります。介護、看護、医療、教師などそれ以外にも様々です。イエスさまは羊飼いのように、天国までずっと共に生きて私たちを導くお方です。このイエスさまは永遠に「パストラルケア」をしてくださる唯一のお方なのです。